

葉山を「元気で住み良いまち」にするために！

障がいのある人も高齢者も安心して住みやすいまちに

中村かずおは30数年前から横浜市職員として地域福祉にかかわってきました。その経験から保健・医療・福祉の連携と地域の見守り・支え合いと、住み慣れた地域で暮らし続けられる地域のシステムづくりが急務と考えています。

人生100年時代、85歳以上の高齢者の二人に一人は認知症という調査結果があります。今や、認知症は他人事ではありません。認知症の予防も大事ですが、認知症になっても安心して暮らせる環境をつくること、はるかに重要で現実的かつ有効な対策です。

そして、そうした環境をつくるには、私たちの奥深くに潜んでいるかもしれない認知症に対する誤解と偏見を退治することです。社会の誤解と偏見が、認知症の人とその家族を生きにくくしているのです。

中村かずおは、2年半前に「とも生き茶ろん(認知症と共生する社会の実現を目指す会)」を立ち上げ、毎月1回葉桜会館で集まりを開いています。

とも生き茶ろん (認知症と共生する社会の実現を目指す会)

お茶を飲みながら認知症の理解と助け合いの仲間づくりをしています。

《活動内容》

- ・ 認知症の正しい理解
- ・ 地域や社会で頑張る認知症の人の事例紹介
- ・ 介護体験談
- ・ 施設見学、ビデオ鑑賞
- ・ 仲間づくり



■ 中村かずお プロフィール

1942年、群馬県桐生市に生まれる／群馬県立桐生高校卒業／横浜国立大学経済学部卒業／横浜市役所に勤務(主に環境事業・福祉・企画調整等の業務に従事。なかでも福祉行政には老人福祉を中心に十数年従事)／社会福祉法人 横浜市福祉サービス協会専務理事／前葉山町町内会連合会長、前葉桜自治会長
現在、知的障がい者や高齢者を支援する社会福祉法人の理事長
とも生き茶ろん(認知症と共生する社会の実現を目指す会)、葉山災害ボランティアネットワークで活動中



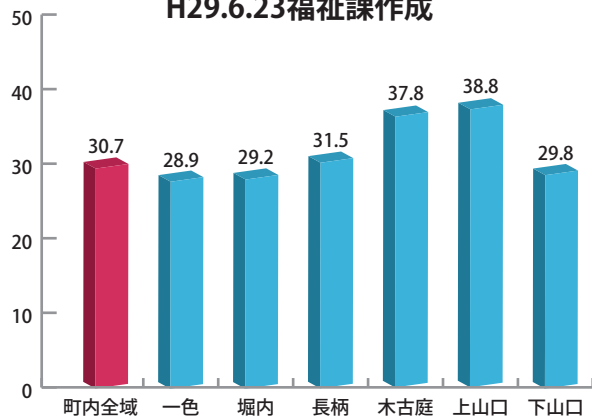
待ったなしの“支えあいの地域づくり”

進む葉山町の高齢化 高齢者が半数近い地区も

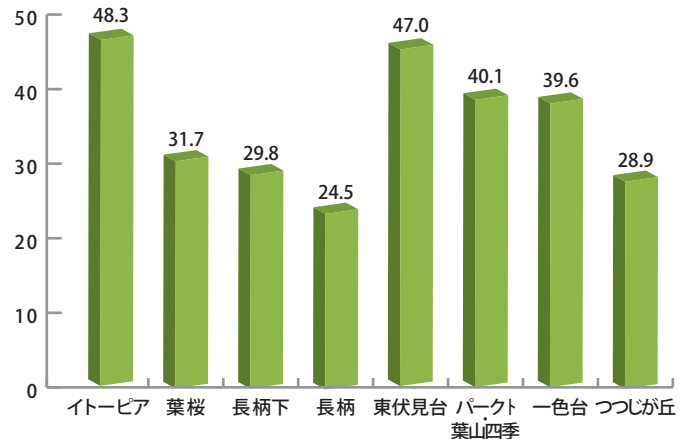
葉山の町高齢化率は30.7%(図1)、地区別にみると(図2)、住民の半数近くが高齢者という地区もあります。今後、一人暮らしの高齢者や高齢夫婦だけの世帯が増え、介護が必要な人の比率が高い後期高齢者が増えていきます

※高齢化率:総人口に、65歳以上の高齢者人口が占める割合

葉山町高齢化状況(%) 図1
H29.6.23福祉課作成



葉山町地区別高齢化状況(%) 図2



住み慣れた地域で自分らしい生活を送るための国や葉山町の体制づくり

厚生労働省は可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制(地域包括ケアシステム)の構築を推進しています。

葉山町は、昨年から第2層協議体の生活支援コーディネーター2人を社会福祉協議会に配置して、下山口・堀内・長柄地区で地域福祉の基盤体制づくりに取り組んでいるほか、現在1か所の地域包括支援センターを1月から2か所に増やします。

困っている人をサービスにつなげる地域づくりが必要

地域に医療機関や福祉施設、相談機関が整備されても、助けを求めようとしない、或いは求める術を知らない本人・家族、そして気がついてどう支援したらいいかわからない近隣の人や友人に、手助けや声掛けができる仕組みが必要です。

民生委員・自治会・老人クラブや近隣の皆さんも、プライバシーの保護や守秘義務が尊重される今日、地域で困っている人の情報を早い段階で把握して、必要な対応をするのが難しいのです。人知れず困っている人たちが、サービスや支援を受けられるようにすることが必要です。

行政の責務と地域の役割を明確にし、住み良い葉山のまちづくりに取り組みます

域包括ケアの実現には地域の力が必要です。しかし地域にも限界があります。行政がやるべきこと・やれること・やれないこと、地域がやれること・やれないことをしっかり整理し、町民との合意のもとで進めることが重要です。

中村かずおは、葉山町と葉山町社会福祉協議会、地域の仲間と力を合わせ、住み慣れた地域で自分らしい生活を送れるまちづくりに取り組んでいきます。